

平成 28 年度 8020 公募研究報告書抄録（採択番号：16-1-01）

研究課題：歯科医師と管理栄養士の連携による歯科外来における

栄養評価・指導の実践法に関する研究

研究者名：守屋信吾¹，下山和弘²，恩田理恵³，萩原 淳⁴，原田江里子⁵

所 属：¹女子栄養大学栄養科学研究所，²東京医科歯科大学 歯学部，³女子
栄養大学・栄養学部・臨床栄養管理研究室，⁴萩原歯科クリニック，
⁵森林公園歯科医院

抄録

【目的】低栄養あるいはそのリスクの予防には歯科のアプローチに加え栄養学的アプローチの併用がより有効であると考えられる。歯科外来において食事記録により食事状況を調べ管理栄養士が評価指導法を示し、その結果を対象者にフィードバックすることにより、食事状況の改善度を示すことを目的とした。

【方法】研究に協力が得られた歯科医院において、初回調査に 43 名（男性 18 名，女性 25 名，年齢 73.5 ± 8.2 ），再評価までの調査に 33 名（男性 12 名，女性 21 名，年齢 72.5 ± 7.8 ）が参加した。食事記録により連続しない二日間の食事の内容をリアルタイムに記入し、それを管理栄養士が詳しく評価した。内容は、欠食の有無，料理の状況（主食・主菜・副菜を揃えている状況），食材種類数，食品群別摂取頻度とした。管理栄養士の指導内容を歯科外来において歯科医師より対象者にフィードバックして、その後食事の状況を再評価した。

【結果】食事指導後では、欠食の頻度は減少し、緑黄色野菜の摂取状況では有意差はなかったが改善傾向がみられた。それ以外の項目では改善はみられなかった。歯科外来で実施する栄養指導には、栄養学的な専門性の高いアプローチを取り入れる必要であることが示唆された。